

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第3号 平成18年2月1日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

旭労災病院小児科紹介

小児科部長 安藤 郁子



旭労災病院小児科は昭和58年開設され、62年頃から現在の常勤二人体制で主に急性疾患の外来及び入院診療を担っています。最近では小児化問題や小児科医不足であちこちの病院の小児科が縮小、閉鎖されていく中、当院近郊の子供の人口は全国平均に比してまだ多く、また小児科の入院患者数の紹介率は平成16年度55%、平成17年度64%と半数以上が近隣の先生方からの紹介患者様で成り立っており、病診連携に支えられているおかげで当院小児科の存続は当分安泰のようです。この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

最近の小児医療の問題点として小児科医不足、小児救急問題と子育て支援などが取り上げられています。確かに当院も小児科医増員は不可能な状況とのことで、小児救急も限界があるものこうなったら二人でできる範囲でがんばろう！！と昨年4月から毎週水曜日と木曜日を夜間10時まで小児科医が救急対応しています。(毎月第三日曜日は小児科医が朝まで当直しています)

もちろん、その他の日もいつでも呼び出し体制をとっており当直の先生から連絡を受ければ小児科医が診察に行きます。また昨年からは当院は研修指定病院となり、研修医が救急外来で対応していますが、小児科は2年目の研修医が回っており大体のプライマリーな対応は出来るように「患者には優しく研修医には厳しく」をモットーに教育しています。もし何か至らない点がありましたら、先生方からもよろしくご指導頂きたく存じます。

さらに子育て支援の取り組みについても当科では毎月一回土曜日の午前に診療とはまったく別に発達障害児や子育て不安の親を集めて音楽療法を行っています。精神運動機能や言語発達の遅れなどの悩みや不安を感じている親御さんを対象に、子供との関わり方や遊び方の支援や自閉症などの発達障害の診断療育を含めて音楽療法士、言語療法士、臨床心理士、保育士などが集まって無料で行っています。先生方の外来でお困りの症例あればご紹介下さい。

最小侵襲プレート骨接合術



第二整形外科

部長 花林 昭裕

近年、身体に対して種々の検査、処置、手術を行う際、いずれの科においても侵襲の小さい方法が考案され、積極的に臨床に取り入れられています。

整形外科手術においても、古くは膝関節の半月板損傷、滑膜炎に対する鏡視下切除術をはじめとし、インピンジメント症候群に対する鏡視下肩峰下徐圧術、椎間板ヘルニアに対する鏡視下摘出術、手根管症候群に対する鏡視下開放術など主に内視鏡を用いて侵襲をできるだけ小さくする努力が行われています。

さて、骨折の手術ではどうでしょうか。骨折部を直接展開し、スクリュー、プレートを用いて整復固定することにより、早期の機能回復が得られるようになりましたが、手術侵襲による問題点も多く認められました。その後、髄内釘が開発され長管骨骨幹部、骨幹端部の骨折では、骨折部を直接展開することなく固定ができ、飛躍的な成績の向上が認められました。しかし、骨端部および一部の骨幹端部骨折では髄内釘の適応とならず骨折部を展開し、プレートによる固定が必要となります。

そこで、プレートの裏面を削り骨との接触面積を小さくしたり、プレートとスクリューがロックングされ骨への圧着が軽減されるようなインプラントが開発されてきました。

最近では手術手技による小侵襲を目的とした MIPO (Minimally invasive plate osteosynthesis) が考案され、当院では開発初期より本方法を取り入れ手術を行っております。この方法は、骨折部を直接展開せず、骨折部の近位、遠位部のみに皮切を行い、プレートを骨膜上に滑り込ませて固定する方法です。骨折部を直接展開しないため、技術的にはある程度の経験が必要ですが、骨折部が愛護的に固定されるため旺盛な仮骨を伴った良好な骨癒合が得られます。

今後もインプラント、手術手技の両面から新たな手術法が考案され、さらに侵襲の少ない手術が行われることとなるでしょう。